

製品名: リン酸化 IKK ベータ (Tyr188) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab00838**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% アジ化ナトリウムを含む PBS 液 (pH 7.3)。
精製	アフィニティークロマトグラフィー

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Calculated MW: 87 kDa; Observed MW: 87 kDa

抗原情報

遺伝子名	IKBKB IKBKB; IKKB; Inhibitor of nuclear factor kappa-B kinase subunit beta; I-kappa-B-kinase beta;
別名	IKK-B; IKK-beta; IkbKB; I-kappa-B kinase 2; IKK2; Nuclear factor NF-kappa-B inhibitor kinase beta; NFKBIKB
遺伝子 ID	3551
SwissProt ID	O14920
免疫原	抗血清は、ヒト IKK-β の Tyr188 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

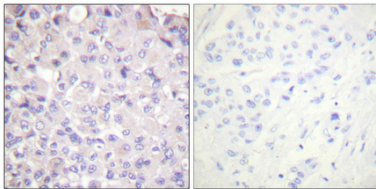
背景

NF- κ B/Rel 転写因子は、細胞質中で不活性な状態で存在し、阻害性 I κ B タンパク質と複合体を形成しています (1-3)。NF- κ B を活性化する因子のほとんどは、リン酸化誘導性プロテアソームを介した I κ B 分解に基づく共通経路を介して活性化します (3-7)。この経路における重要な制御ステップは、高分子 I κ B キナーゼ (IKK) 複合体の活性化であり、その触媒作用は通常、3つの密接に会合した IKK サブユニットによって行われます。

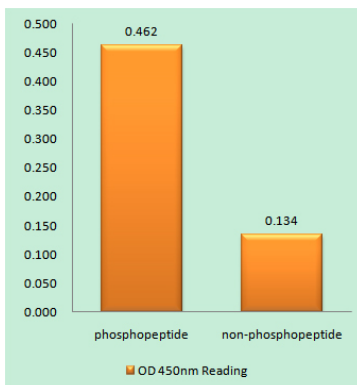
研究分野

シグナル伝達

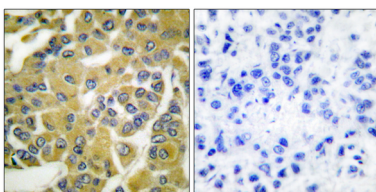
画像データ



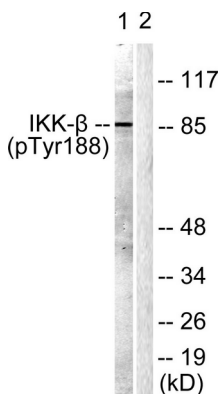
リン酸化 IKK ベータ (Tyr188) 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学分析。抗原賦活化には、高圧高温 Tris-EDTA pH 8.0 を使用しました。右側はブロッキングペプチドを含むサンプルです。



免疫原リン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) に対する酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)、IKKbeta (リン酸化 Tyr18 抗体)



リン酸化 IKK β (Tyr188) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。抗原賦活化には、高圧高温クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を使用した。右側はブロッキングペプチドを添加したサンプル。



リン酸化 IKK ベータ (Tyr188) 抗体を使用した COS7 溶解物中のリン酸化 IKK ベータ (Tyr188) のウェスタンブロット分析。右側のレーンは合成ペプチドでブロックされています。